

EMERGENCY WATCH

No. 96 Dec 2018



神戸こども初期急病センター

2018年11月
受診者数
1533人

疾患頻度

1. 急性上気道炎・感冒	424人
2. 感染性腸炎	268人
3. 喘息	174人
4. 咽頭炎・扁桃炎	119人
5. 気管支炎・肺炎	44人

- ・インフルエンザ感染者数ですが、10月5名、11月16名でした。まだ流行しているとは言えない状況です。
- ・感染性胃腸炎は先月140名から急増してます。ご注意ください。

急に寒さが厳しくなってきましたね。胃腸かぜ(ウイルス性胃腸炎)は夏にも見られますが、胃腸かぜの主な原因であるノロウイルスやロタウイルスは冬に発生することが多いことが知られています。今回は嘔吐や下痢の原因となる胃腸風邪(ウイルス性胃腸炎)について説明したいと思います。

Q1胃腸かぜ(ウイルス性胃腸炎)とは？

多くはウイルスが胃や腸に感染することで、消化管の働きを悪くするため、急に吐いたり、下痢をしたりします。嘔吐は何度も繰り返し、半日程でおさまることが多いですが、中には数日間続く人がいます。嘔吐に引き続き水っぽい下痢便が見られることが多いです。

Q2胃腸かぜの原因は？

原因はノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルスなどが有名ですが、ウイルス性の胃腸かぜは様々なウイルスによって引き起こされます。胃腸かぜのウイルスは、感染した人の嘔吐物や便を触った手、あるいはその手で触れた物を介して、口から体内に侵入して感染します。また、嘔吐物が乾燥すると胃腸かぜのウイルスが空気中を飛散し、ウイルスを吸い込むことで感染する場合があります。それ以外にも、ウイルスに汚染された水や食べ物(貝類が多いとされています)を、加熱が不十分なままで食べることで感染が起こります。

Q3どうして嘔吐するの？

嘔吐は、一回に飲んだり食ったりする量が、現在のお腹の大きさ(消化吸収能力)を超えてしまう時に起こります。元気な時の胃腸にくらべ、胃腸かぜに罹っている時の胃腸では消化吸収能力が非常に低下していて、1回に飲んだり食べたりできる量がとても小さくなっています。1回に飲んだり食べたりできる量を超えて多くの食べ物や飲み物が入ると、嘔吐してしまいます。

Q4 治療法はあるの？

胃腸かぜに対する特別な治療はありません。治療の中心は、吐き気がおさまってからこまめに水分補給を行うことです。最後に嘔吐してから3時間ほど空けて、スプーン1杯程度の水分から開始してください。その後、嘔吐がなければ水分の投与間隔を30分、15分とし、1回の量を徐々に増やしていき下さい。再度嘔吐があるようなら間隔をあけてから再開して下さい。水分の種類は、常温のイオン飲料を水で薄めて与えるか、経口補水液をあげるようにしてください。脱水がすすむとおしっこが少なくなります。半日以上おしっこが出てこない時は医療機関の受診が必要です。オムツをこまめにチェックしましょう。

下痢に対しては整腸剤を飲み、下痢で失われる量以上の水分摂取が必要になります。消化の良いもの(水、ヨーグルト・ゼリー、お粥など)を与えてください。下痢は嘔吐がおさまった頃から見られることが多いですが、嘔吐が続く状態で下痢が始まることもあり、そのような場合は特に脱水に注意が必要です。必ずかかりつけ医と相談して下さい。

胃腸かぜはこどもでよく見られる病気です。

かかりつけ医と相談しながら、脱水にならないように水分をしっかりと与えましょう。